

小樽を盛り上げる！複合交流施設 Tug-B オープン

合同会社 Portaru(緑3・歌原大悟代表)は、地域住民や若者・旅人に心地良い居場所を提供する、4階建て大型コミュニティ施設「Tug-B(タグビー)」を、花園3丁目に開設し、12月1日(水)シェアハウスをオープンした。

ひとつの建物に、カフェバー・ゲストハウス・シェアハウスの機能が集結した施設で、小樽商大生をはじめとする若者の居場所を作ることで、小樽のまちに新しい活気、地域連携プロジェクトの可能性を提供するために誕生。



2020(令和2)年4月に設立された小樽商大生ベンチャーである同社が運営主体で、商大生レンタルの企画、大学のボランティアカリキュラムと連携して事業を行ってきた。小樽と商大を繋いで新しい価値を生み出すことをミッションに掲げ、現在17名で活動。

建物所有の株式会社大人(五十嵐慎一郎代表)は、空間プロデュース業務やウェディング事業、地域活性化のイベントの企画運営等を行い、Portaruと業務提携をしている。

遊ぶ・泊まる・暮らす・生み出す・様々な関わりができる複合施設で、商大生の学外の居場所でありながら、地域社会に開かれた交流拠点を目指し、人が集まるベースキャンプとして、様々なプロジェクトが生まれる中心となる。



オープンを祝い、16:00~22:00は入退場自由で、みんなが集う1階ではUNOや卓球を楽しみ、飲食スペースでキャンプ飯の提供、2階のゲストハウスでこだわりのコーヒータクティ、夜はTug-Barと称し、バルのような活気あふれる交流の場を創出したイベントを開催。

3階のシェアハウスは女子専用1部屋(4人用)を含む6部屋があり、最大15名まで入居でき、現在、歌原代表と他1名が入居中で、4階はプロジェクトを運営する・何かを立ち上げた人の事務所など、何かを生み出すことに使用してもらいたいと使用方法を検討中だとし、歌原代表の案内で内覧会ツアーが行われた。



歌原代表は、「Tug-B(タグビー)の由来は、船を引っ張るタグボートからきていて、ここに来た人を少しでも面白い方向へ引っ張ってあげたい。コミュニティの拠点として、いろいろな人が集まる場所・出会いの場所となり、生活がもっと面白くなるよう期待できる場所にしたい」と説明した。

内覧会に参加した同大学2年の男子学生は、「ホテルともアパートとも違い、想像以上のものだった。今小樽で下宿しているが、人と話すことが好きなので、住んでみたいと思った」と話した。



シェアハウスオープン後は入居者を募集しながら、団体やサークルが使うイベントスペースにしたり、ジャズのライブハウスなどの利用も考えており、地域の町内会のイベントも自然とここに集まり、商大生レンタルの活用場所になればと期待を寄せた。

カフェとゲストハウスは来春オープンを目指している。

樽商大生運営 シェアハウス

若者の活動拠点づくり狙い開業

小樽商科大生が設立した合同会社「PoRtaru(ポータル)」は1日、小樽の繁華街・花園地区にある4階建ての建物にシェアハウスを開業した。建物を所有する札幌の不動産会社「天人」(五十嵐慎一郎社長)と業務提携し、ポータルが運営を担う。来春までに順次、同じ建物にカフェバーやゲストハウスもオープンさせ、小樽の活性化につながる施設を目指す。(谷本雄也)

小樽出身の五十嵐社長が「ス」を始めることにした。「大」「小樽を若い力でもっと盛り上げたい」と、ポータルが今夏に花園3のゲストハウスだった建物を購入との共同事業を企画。まず、9月から部屋の改装など準備を進めてきた。



見学の参加者にシェアハウスを紹介する歌原代表(右から2人目)

花園地区 交流の場 カフェも計画

「ス Tugger」を名付けた。シェアハウスは3階部分で、最大15人の入居が可能。現在は商大生2人が住み、入居者を募集している。料金は月額3万5千円からに設定した。

商大生の約7割が札幌など市外から通学し、駅と学校との往復だけで小樽の街との接点が少ない学生も多い。自身もシェアハウスに入居したポータルの歌原大悟代表(28)は「短期でも小樽に住んで、地元を楽しさを知ってもらいたい」と話す。

このほか、1階は昼にカフェ、夜はパブとして学生や地域住民、観光客が交流できる憩いの場、2階はゲストハウスの開設を計画する。商大生だけでなく気軽に住民が立ち寄れるようにすることで、地域に開いた交流拠点を目指す。

初日の1日には記念イベントを開催。建物内の見学会のほか、カフェの開設を見据えてコーヒーの試飲会などを行った。歌原代表は「さまざまな人が集まり、地域活性化に向けた新たな原動力やプロジェクトが生まれる場所にしていければ」と意気込む。



3階にシェアハウスが入る建物

「組織統治立て直す」

旭医大 西川次期学長が抱負

【旭川】旭川医科大学の次期学長予定者に選ばれた西川祐司副学長(61)が1日、同大で初めて記者会見し「優れた医療者を育成する本学の根本的な理念に立ち返り、根幹の教育と研究を重視する」と抱負を述べた。同大が文部科学相に解任申出書を提出した吉田晃敏学長による不正に關して「大学が責任追及するのは今後考えていく必要はある」と述べた。

(若林彩)

研修施設建設中止へ

西川氏は11月に学長予定者に選ばれていたが、吉田学長の解任を巡る結論が出ていないため、会見を開いていなかった。しかし、文科省の判断に時間がかかる見通しとなり、会見に臨み切った。



会見で「基本に立ち返り努力すれば危機を乗り越えられる」と述べた西川氏（宮永春希撮影）

吉田学長から方針は示されず、予算執行などは手探りで進めたとし、「大学のガバナンス（組織統治）を全くないがしろにした」と批判。学長交代について「ガバナンスを立て直す最後のチャンス」と語気を強めた。

具体的な施策として、学長政策推進室を廃止する一方、既存の大学運営会議の

運営体制「強い懸念」

国立大評価委

解任巡る混乱で

文部科学省の国立大学法人評価委員会は1日、国立大など83法人の2020年度業務実績評価を公表した。同省が学長解任の適否を審査中の旭川医科大学について「学長が職務を遂行できていない状況により、国立大学法人制度が求める運営体制となっていない」とし、「強い懸念」を示した。

旭川医科大学については、学長の不祥事が学長選考会議による解任の申し出に発展したことを受け、全体評価で大学の運営体制に厳しい見方を示した。元教授が論文で画像を盗用するなどした不正行為にも触れ「再発防止に向けた組織的な取り組み」を求めた。

同大は会員で、吉田学長が17年に表明した外国人医師研修施設「国際医療・支援センター」建設計画を中止する方針で調整していることも明らかにした。

西川氏は1984年に同大を卒業し、88年に同大学院医学研究科を修了。2009年に同大病理学講座腫瘍病理分野教授に就任。今年2〜10月、吉田学長の解任問題を議論する学長選考会議の議長を務めた。

文部科学省は旭川医科大学の吉田晃敏学長について

同大の学長選考会議から出された解任の申し出を審査している。吉田氏の弁明を聞く「聴聞」を経て、解任の適否を判断する方針だが、スケジュールは定まっていない。

国立大の学長を解任する権限は文科相にあるが、行政手続法に基づく聴聞が必要となる。文科省は聴聞の前段階として、学長選考会議が提出した学長解任の申し出を慎重に精査しており、聴聞を実施するめどは立っていない。

学長選考会議は6月、吉田氏にパワハラコメントなど不適切な言動があったとして、文科相宛てに解任の申出書を提出。これに先立ち、吉田氏は文科相宛てに辞任届を提出していたが、同省は受理していない。末松信介文科相は11月16日の閣議後会見で「できるだけ速やかに手続きを進めていきたい」と話している。

(大能伸悟)